

教科	保健体育科
7学年 単元名『狙い通りのプレーを生み出そう』 授業実践・授業研修	
日時	令和8年2月 18日(水) 13:40~16:00
授業者	富岡 宏健
本時のねらい	指示を状況に見立て、それに応じて反対の打ち方へと切り替えて目標物を狙うことができる。
キーワード	球技・教材開発・戦術学習・状況判断
授業の実際 (本時の子供の姿)	卓球台に置かれた折り紙に向けて左右の方向を調整して打ち返したり、ピラミッドに当てて崩そうとする中で強弱の調整をしたりしようと取り組んできた子供たちは、本時では、ピラミッドを崩す／崩さない、左右のピラミッドのどちらをねらうかを指示と反対のことをねらうことで、実践的な状況判断を養えるようにした。多くの子供が授業として初めて卓球を経験する中で、技能的にはまだ成長段階にあるものの、紙コップで作ったピラミッドという目標物があることで、粘り強く取り組もうとする子供の姿が多くみられた。
事後協議の概要	子どもたちが技能差に関係なく活動に取り組んでいた姿が印象的であった。教具を工夫し、達成感を味わえることは、図らずも達成できないことを明示的に示してしまうが、教師の関りによって協働的な学びを形成しようとするマインドセットをもとに軽減することも可能である。なによりも、目標物があることで、できた／できなかったはもとより、おいしい!あと少しなどといった感情を共感的に学ぶことが可能となるような場づくり、教材開発なども重要である。難易度の順序性や運動の本質との関連性を考慮した教材開発に今後も取り組んでいくことが重要である。

